

感性に磨きをかけ、表現力を高めよう!

～ ビブリオバトルへの参加をとおして～

11月19日(日)に南草津駅前の市民交流プラザにて、「くさっビブリオバトル2017」が開催され、本校からは1,2年生7人が参加しました。

何人かの発表者が一定時間内に本の紹介を行い、観戦者が一番読みたくなった本を決定するゲーム、ビブリオバトルは10年余り前に考案され、今や全国的に図書館や学校、書店などで多くの参加者が集い開催されるようになりました。

今回参加した子どもたちは、興味を持ったことを聞き手にもわかるように、言葉を吟味して、豊かな表情と話しぶりで、紹介したい本の魅力を伝えていました。印象に残った言葉や場面を簡潔に述べ、その本をすすめる理由を2,3点に整理して伝える発表内容はすばらしかったと思います。

私が読んだことのある本を紹介した人も何人かいました。確かにそこがおもしろかったと思うこともあれば、私の感想とはちょっと違う側面からその本の魅力を紹介する人もいました。子どもたちの感性というのは、実に豊かで人それぞれだなと感じました。

そして今回は、本校生徒が会の進行役も務め、堂々とした話しぶりで会を引き立てました。



本の紹介 ～廊下の掲示より～



くさっビブリオバトルの様子

2年服部可奈羽さんの発表より

紹介本:君は月夜に光り輝く
「…私が皆さんに一番伝えたいこと。それは、自分の命、人の命を大切にすること。…私はこの本を読んだあと、これまでの前の自分と何かが変わりました。早く終わって欲しいと思っていた毎日が一日一日を大切にしようと思うようになり、生きていることに感謝したいと思いました。笑ってしまうところ、感動するところ、ラブストーリー、すべてが詰まった小説です。」

2年佐倉蓮也さんの発表より

紹介本:夏は終わらない
「…主な登場人物は月谷さんと木暮さん。…それぞれが悩みと熱いおもいを胸に秘め、最後の甲子園へ向けて走り出す感動的な高校野球小説です。一番読んで欲しいのは第2章のところ。この本をとおして何事もあきらめないでがんばることが大切だと思いました。」

「てれないで にっこりえがお こんにちは」 1年生 川村匠央さんの作品

(草津市青少年育成市民会議「あいさつ運動啓発作品」校長賞)

気づき、考え、実行しよう！

2学期は各学年で、部落問題学習を重点的に取り組みました。1年生は「部落差別の起こり」、2年生は「水平社宣言」、そして3年生は「結婚差別」を題材にして、部落差別について科学的に正しく理解するとともに、自分の問題としてとらえながら差別をなくそうとする実践力を高めるよう学習を進めました。どの学級においても、落ち着いた雰囲気の中で、学習課題にしっかりと向かい合う姿が見られました。具体的な学習状況については、学年ごとに報告をしましたので、ご家庭においても話題にしていれば幸いです。



3年人権教育講演会
～ぬくもりを感じて～

ところで、皆さんは赤十字活動の創始者「アンリー・デュナン」という人をご存じでしょうか。デュナンは19世紀半ばのイタリア統一戦争の時に、戦死者や負傷者が放置されている悲惨な現実を目の当たりにして、「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない。」との信念のもとに救護活動にあたったそうです。こうしたデュナンの願いを受け継ぐ赤十字活動のひとつ、青少年赤十字では「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げて活動を展開しています。これは本校の人権教育にも通じる理念です。

部落差別をはじめとするあらゆる差別や人権問題、いじめ問題は、特定の人だけの問題ではありません。知らず知らずのうちに人を傷つけてしまうこと、そして傷つけたことに気づけず

にいること、それは誰にも起こりうることなのです。だからこそ、正しく知り、学び、自分も周りの人も大切にできるように、無関心でなく、問題に気づいて（感じて）、考えて（正しく判断して）、実行（行動）できる人になってほしいと願ってやみません。

老上中学校人権キャラクター“ピヨタ”



① 感じる



② 正しく判断する



③ 行動する



うどん打ち体験（2年生）

11月8日、9日に、鳩が森麩の会の皆さんにご指導いただき、食育の一環として、うどん打ち体験をしました。



生徒総会（新体制でスタート）

新生生徒会のスローガンは
“We Can Make Smiley Days!”
— 笑顔満開の学校に —
活発で創造的な活動を期待します！